

### 3.効率的で質の高い医療提供のための 多職種連携

#### 【現状】

医療・介護スタッフによるカンファレンスの開催が充分でない。  
情報共有ツールが統一されていない。  
多職種連携に重点を置いた人材育成研修・協働(IPE・IPW)はない。

#### 【事業開始15ヶ月後】

医療・介護スタッフ相互に顔の見える関係ができつつある。  
多職種連携の人材育成に向けた、医療・介護関係者相互に交流する仕組みができつつある。

#### 【2025年頃】

医療・介護におけるIPE・IPWの理念と実践が定着している。  
人材育成研修も基礎レベルと応用レベルに分かれて、ニーズに対応した研修が実施できている。



お互いの理解が深まることで、質の高い医療が提供できるんだね♪

### 4.入院病床の確保及び家族の負担軽減

#### 【現状】

市内の病院や介護施設等の入院・入所施設の情報集約は出来ていない。  
家族の負担軽減のためのレスパイトサービスの利用は充分広がっていない。

#### 【事業開始15ヶ月後】

医療・介護スタッフ相互に顔の見える関係ができつつある。  
多職種連携の人材育成に向けた、医療・介護関係者相互に交流する仕組みができつつある。  
レスパイトサービスの拡大に向けた調査・検討が行われている。

#### 【2025年頃】

医療・介護におけるIPE・IPWの理念と実践が定着している。  
人材育成研修も基礎レベルと応用レベルに分かれて、ニーズに対応した研修が実施できている。  
レスパイトサービスが広まり、十分に活用されている。



ショートステイが使えない医療依存度の高い人でも、病院が入院させてくれるなら安心だ☆

## 5.在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

### 【現状】

地域住民の認識は低く、在宅医療に関する情報に触れる機会が少ない。

2025年問題も、市民は自分に関係ないと思っている。

### 【事業開始15ヶ月後】

市の広報誌で紹介されたり、市民向けのフォーラムが開催され、在宅医療の問題を聞く機会が増えている。

### 【2025年頃】

町内会や福祉教育などでも取り上げられ、家庭で在宅医療について考える機会が増える。

地域住民は、病院やかかりつけ医と上手なつきあい方が出来る。



そうか、高齢者の事を考えるってことは、将来の自分のことを考えるってことなんだね！

## お問い合わせ窓口

安城市 在宅医療連携拠点推進事業

### 担当窓口

安城市介護保険課介護保険係

担当者：河井、天野

電話番号：0566-71-2226

メール：[kaigo@city.anjo.aichi.jp](mailto:kaigo@city.anjo.aichi.jp)

住所：〒446-8501 安城市桜町18-23